

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590200069		
法人名	社会福祉法人能代市社会福祉協議会		
事業所名	能代市緑町グループホーム		
所在地	能代市緑町7番17号		
自己評価作成日	令和5年9月26日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、デイサービスセンターと養護老人ホームが併設となっており、施設間の交流や施設合同で開催する行事などもあり、その他、デイサービスセンターのレクリエーションに参加する等の交流もありますが、廊下続きで、その距離も短いため、気軽に参加と交流が出来るのが特徴となっています。毎日のレクリエーションも企画していますが、行事も合同開催のものも含めると大変多く、彩りある生活を送っていただけたと考えております。隣接しているデイサービスセンターには看護師が配置されており、体調に変化があった時などは相談できる体制がとられている事は安心して生活していただける点となっております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和5年11月17日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3施設が渡り廊下でつながっており、日常から支援体制が築かれている。また、合同の行事など地域との交流もあり、地域の福祉施設として広く周知され、地域に受け入れられているホームである。利用者と家族のつながりを大切にし、高齢者、認知症にとらわれず一人の人間として尊重するなど利用者一人ひとりを大切に思っている。それは、看取りはしていないが、環境の変化による影響を考え、ぎりぎりまで支援するという姿勢にも感じられる。コロナ禍においても、家族の代わりはできないからと、制限を講じながら家族とのつながりを継続してきている。感染予防しながら工夫し外出や行事を行い、利用者のストレスの軽減、意欲につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「誰もが支え合いながら安心して暮らすことができる地域づくり」を基本理念に掲げ、地域にとけこんだ生活を送ることが出来るように意識している。	法人理念の他、事業所独自の理念を理解しやすいよう5つのキーワードにして掲げている。年度初めには職員会議で確認している。目指すべきケアの本質を示したものであり、それを共有、意識付けし実践につなげている。	その時々の利用者のニーズや、事業所状況の変化による現状にあった理念について掘り下げ話し合うことに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルスのため、ここ数年地域との交流はほとんどありませんでしたが、今年度は交流のある行事や避難訓練を実施している。	近所の方が花を見にきてくれたり、庭にテーブルを出してお茶をしていると声を掛けてくれたりと日常的に触れ合う機会がある。また、目の前が近隣の高校のランニングコースとなっており、甲子園出場の際は『おめでとう』と垂れ幕を掲げた。学生にも身近に感じてほしい、気軽な存在でありたいと、高齢者、認知症を超えた人と人との付き合いを目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	介護福祉課として、家族介護者教室を開催し、今年度は認知症についてをテーマとしました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご入居者、ご入居者のご家族、地域住民代表者、学識経験者、市職員が委員として出席しており、意見をいただき、サービス向上に繋げている。	行政、地域、家族など多角的な視点や知見から積極的に意見が出されている。生け垣の整備やエアコンと感染対策などそこで出された意見をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	指定管理施設でもあるため、市担当者への連絡は密に行っており、協力関係を築くようにしている。	指定管理施設のため、毎月運営状況の報告、建物の不具合や物価高騰による相談など市との関わりは密である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束及び虐待防止について、研修を行い、介護福祉課職員で構成されている身体拘束廃止委員会を定期的に開催し、身体拘束をしないケアに取り組み、防止に努めている。 玄関の施錠については、不審者情報があった事もあり、状況によっては施錠することもあった。	定期的に身体拘束廃止委員会を開催し、職員会議で報告し共有している。外が気になる利用者に対しレクリエーションで気分転換を図ったり、「ちょっと待って」など行動を制止するような言葉の拘束がないよう気をつけたりし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、入居者のうち1名が日常生活自立支援事業を利用している。今後、権利擁護に関する制度について、事業所内で学ぶ機会を計画したい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い、理解していただくようにし、質問等がないか、確認している。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	ご家族等が意見等について、職員に対し気軽に話すことができる関係づくりができるよう心がけている。外部へ表せる機会については、契約時に説明するとともに、事業所内に掲示している。	毎月利用料金支払いに来訪した際に、利用状況を伝えながら、家族から意見など聞き出せるよう努めている。会話の中でこだわりに気付いたり、また遠慮から本人が言い出せなくても、これまでの生活から家族の代弁で対応したケースなども確認できた。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎月開催している職員会議において意見が出来る機会を設けている。また、個別に意見を表明できる機会も設けている。(自己申告書)	働きやすい環境作りを行っており、勤務時間の見直しなど職員の意見を反映させている。年1回の自己申告書にて働き方について表明できる機会がある。資格取得には費用の助成や勤務免除などのバックアップがあり、職員それぞれがステップアップできる環境となっている。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護福祉課で構成されている委員会への参加において、同法人他事業所の職員との交流があり、研修に参加することで交流の機会をもち、情報交換、情報共有の機会となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	食事や日々の活動する場において、空間を共有しながら、ご本人が思いを話しやすい関係作りを心がけ、聞き取りする様にしている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活から、環境が変わるということについて不安に感じていると思われるため、サービス導入する段階で、話しやすい関係となることが出来るよう、聞き取りを行っている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共有の空間で一緒に過ごす時間が多く、掃除、洗濯、食器拭き等の家事を共同で行う事で暮らしを共にする関係を築くよう努めている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状態について報告し、情報の共有を図ることで、ともに支えているという関係を築いている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	ご本人の馴染みの物をご家族に持ってきていただいたり、いつでも面会に来ていただき、関係が途切れないように努めている。	家族の代わりはできないと、コロナ禍で感染状況に応じて制限を講じながらも、家族とのつながりは継続してきた。行事へも工夫しながら家族にも参加してもらっている。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、気の合う方と同席になるように配慮し、レクリエーションや作業を通して関わりあい、支え合えるように職員が見守り、かわりを持つように努めている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かあればいつでも相談して欲しいと話をしており、退居後に現在の状態について話をされにホームを訪問された方もいらした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	日常的なかかわりの中から希望を聞き取りしたり、ご本人の有する力等の把握に努め、ご本人が望む暮らしが出来るように努めている。	問い掛けや表情で読み取る、またこれまでの生活の中での把握など一人ひとりに寄り添いながら思いを把握している。申し送りや職員会議、連絡ノートで共有し、話し合い、対応している。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはご本人の生活歴について、ご本人及びご家族から聞き取りし、入居されてからは日常会話や行動などからその方について理解し、情報の共有に努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	ご本人やご家族から意向を伺い、職員からも意見やアイデアを出し合い、計画に反映している。	本人、家族、職員それぞれの意見を反映し、日常生活の上で本人にやってもらいたいことなど利用者主体の暮らしを反映した介護計画となっている。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	日々の状態について記録し、情報の共有を図り、状態の変化に気付けるようにしている。また、その実践と状態から個別介護計画の見直しに活かしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	養護老人ホーム、デイサービスセンターと廊下続きであることが特徴であり、その特徴をいかし行事に参加したりすることが出来ている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と相談し、かかりつけ医への受診をしている。薬局との連携も図れている。	かかりつけ医を継続している。受診結果については口頭、連絡ノート、業務日誌にて共有している。変化があった時には家族にも電話で報告している。隣接のデイサービスの車両、運転手を活用し、車椅子の利用者も安心して通院ができる。また、デイサービスの看護師に相談できる体制のため心強い。配達してくれる薬局がある。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	デイサービスセンターとは廊下で続いており、体調について変化がある時は相談することができ、指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院に対し、ご本人の状態について詳細を伝えるようにしてる。 病院の退院調整担当者との情報共有が図れるように体制を整えている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の状態の変化についてご家族に情報提供し、事業所で出来る事などについて説明を行っている。	看取りは行っておらず、医療行為が必要になるまでは支援を行っている。入所時や状態変化時において説明しながら、方針の統一を図っている。隣接のデイサービスの看護師に相談したり、また特浴を利用したりと、ぎりぎりまでできることに対して真摯に対応している。	家族へのより丁寧な説明とトラブル防止のため、看取りや終末期の対応についての明確化を検討することに期待します。
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED装置を備え付けてあり、使用の仕方について職員会議で研修した。 救急救命講習修了者についても、救急救命について再習得するために講習に参加している。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所の自治会である藤山自治会と災害協力協定を締結しており、養護老人ホーム、デイサービスセンターと合同避難訓練を実施する予定としている。防災訓練及び夜間招集訓練を実施している。	避難や炊き出しなど想定される有事に関して、自治会や3施設合同で行っている。自治会には事前打ち合わせから参加してもらい、実際に20名近く参加があった。車椅子の操作方法を教えるなどし、実践的な訓練を行っている。備蓄、反射式ストーブ、発電機も備え、またお風呂は循環式のため24時間お湯が張っており、トイレなどに使用できる。BCPについても作成中で完成が間近である。訓練も計画している。	
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者お一人お一人の人格を尊重した声掛けと対応をし、ご本人の意向に合うように支援している。	一人ひとりにあったケア、その人を尊重することを職員会議などで確認している。また、研修を行い学びを深めている。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの時には声掛けし、ご自分の着たい洋服を着ることが出来るように確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は春は山菜等、季節を感じていただけるものを取り入れ、竹の子の皮むきをなども一緒にしている。キッチンオープンで、入居者が一緒に行きやすい環境となっている。	法人の栄養士が食材の注文など関わっており栄養管理がされ、職員はケアに専念できる。盛り付けや片付け、山菜の皮むきなど一緒に行うことで意欲につながっている。誕生日にはその利用者の食べたいものを、また行事食など楽しむことができる。茶碗や汁椀、箸など使い慣れた物が持ち込まれていた。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは栄養士が作成した献立で、栄養バランスの良いものとしている。水分摂取量について水分補給を特に必要とする方については、情報共有を図り水分を摂っていたるように声掛けと介助を行っている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き等の声掛けを行い、自分で出来る方については、口腔ケアの習慣を継続できるように支援している。介助を要する方については介助で口腔ケアを行っている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況について、観察し情報共有を図り介助している。出来るだけトイレで排せつしていただけるように介助し、またその方に合ったオムツ等を使用するようにしている。	一人ひとりの排泄のパターンやサインを把握し、羞恥心に配慮しながらトイレ排泄を促している。布パンツの使用も半数近くいる。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は食物繊維の含まれたものや乳製品を取り入れたりしている。軽体操も毎日行っている。数日排便が無い場合は、処方されている薬を内服することもあるが、出来るだけ自然な排便を目指している。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	体調を確認し、入浴を促しているが、ご本人が気が乗らないときは日を変え対応している。入浴しない日は清潔とリラックス効果を期待し、足浴を促している。	デイサービスの広い浴室、リフトなど機械浴、グループホームの一般浴など一人ひとりの状態や希望により、週に2～3回入浴できる。数名で一緒に入り会話を楽しんだり、好みの湯温に配慮したりしながら入浴支援を行っている。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の気分や体調に応じ、希望やその時の状況に応じて対応し、安心して気分良く眠れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報について、利用者ごとに情報を整理している。内服薬が変更となった時は、情報の共有を図り、内服薬の理解に努めている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居の際に生活歴や嗜好等について聞き取りし、また入居後も理解に努め、楽しみを持ち生活できるように支援している。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で、外出することは減っているが、敷地内の畑に出たり、桜の季節、紅葉の季節等については外出出来るよう支援していた。	敷地内の畑にある木に初めて柿がなり収穫した。畑の農作物は食材となり、また柿は干し柿にした。季節に応じて花見や日帰り旅行などドライブをしたり、作品展に貼り絵を応募し見に行ったりし、気分転換のみならず、意欲につながるよう支援している。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルスの影響で、買い物の為外出するという機会がなかったが、今後計画している日帰り旅行では買い物も出来るように計画している。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの装飾は、入居者とスタッフがともに作成し共用の空間を彩りある、居心地の良いものとしている。	通路を整理整頓して安全に過ごせるよう配慮している。また、ホールのすぐ近くにトイレがあり、ついたてなどで目隠しするなどプライバシーにも配慮している。玄関前にはソファがあり、外を眺めたり、雑談をして過ごしたりできるスペースになっている。壁面の飾りから季節を感じることができる。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファやテーブル等を配置し、ご本人が好みの居心地の良い場所で過ごせるような空間づくりに心がけている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の居室には、自宅で使っていた物や飾っていた物を持っていただき、ご本人の心地よい空間としていただけるよう支援している。	家族の写真やぬいぐるみ、また自作のタペストリーや木彫りの額など馴染みの物、思い出の物を持ち込み、落ち着いて過ごせる空間となっている。転倒など安全にも配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室はご本人が認識しやすいように装飾したり、名前を付けたりしている。トイレにお一人で行ける方については、トイレの近くに部屋を配置する等の配慮も行っている。		